

経済連情報 4

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2024. 4
● NO.1311

令和6年度事業方針・事業計画

Main topics

令和6年度事業方針・事業計画 ……01

topics&news

花の都しずおかをPR

第39回静岡県花の展覧会 ……03

バレンタインに花を贈ろう

フラワーバレンタインイベントを実施 ……03

選ばれる静岡みかん・信頼される柑橘産地を未来につなごう

令和6年静岡県柑橘生産者大会を開催 ……04

県産和栗のブランド化を目指して

和栗ディナー&フォーラムを開催 ……04

特販課の取組を紹介

「ごちそうカントリー」の番組収録と放送 ……05

調味料メーカーと連携

名古屋市で静岡県産フェアを開催 ……05

お知らせ

静岡県農業振興基金協会からご案内 ……06

最新研究紹介

ドリンク原料茶生産に対応した

静岡型茶園管理規格 ……07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ……09

テレビ番組「バカ売れの法則」のご紹介 ……09

令和6年3月31日付 定年・選択定年退職者のご紹介 ……10



▲第39回静岡県花の展覧会



▲「ごちそうカントリー」の番組収録と放送

令和6年度事業方針・事業計画

I 令和6年度事業方針

令和6年度は「JA静岡2か年計画 画く組合員とともに創造 農業の協同の未来」(令和5年度～6年度)の最終年度となります。産地の維持・拡大に向けた農業振興の強化と新時代に対応した総合事業改革や持続可能な経営基盤の確立・強化について、JAと一体となって進め、令和6年

度の事業計画の達成に努めてまいります。

II 基本目標と戦略

JA静岡経済連2か年計画では、3つの基本目標を掲げ、戦略を作成しています。内容は表1のとおりです。

表1 JA静岡経済2か年計画の基本目標と戦略

(令和5年度～6年度)

基本目標1

産地の維持・拡大に向けて農業振興を強化します

- 戦略1 実需者や関係機関との連携強化による販売機能の強化
- 戦略2 多様な実需者ニーズに対応した販売方法の拡大
- 戦略3 継続的な農業経営を維持するための生産拡大の支援

基本目標2

新時代に対応した総合事業改革を行います

- 戦略1 コスト低減と農作業の効率化に向けた支援
- 戦略2 組合員や地域住民のJA利用促進にむけた取組支援

基本目標3

持続可能な経営基盤を確立・強化します

- 戦略1 効率的な事業運営体制の構築
- 戦略2 健全経営の強化

III 令和6年度事業計画

JA静岡経済連第75年度(令和6年度)事業計画は次の通りです。

1. 実需者や関係機関との連携による県産農畜産物の販売強化
 - ① 県下横断的な販売戦略を構築し、生産コスト上昇を加味した販売促進活動を実践しながら主力品目を中心とした取り扱いの維持拡大に取り組みます。
 - ② パートナー市場と連携し、実需者への営業力強化による販路開拓・拡大を行い、取扱額の拡大に取り組みます。
 - ③ 需要に基づく茶の安定生産・販売に向けた茶商と茶工場とのマッチング販売に取り組みます。
 - ④ 共計米に加えてJAとの連携による買取集荷・契約栽培を強化し、多様な集荷・販売を拡大します。
2. 多様な実需者ニーズに対応した販売方法の拡大
 - ① 農業生産法人等への情報提供や販売支援を実施し、連携強化による取扱拡大に取り組みます。
3. 継続的な農業経営を維持するための生産拡大の支援
 - ① JA静岡青果物広域パッキングセンターの設立に向けた取り組みを進めます。
 - ② 系統農機事業の持続化に向けて、農機整備修理技術を持った人材の育成に加え、JA農機センターの収支改善と将来目指すJA農機事業の提案に取り組みます。
 - ③ 近年の異常気象に対応した安定生産や安定販売が可能な「多収穫米品種」の普及を進め、実需者からの業務用需要に対応した契約栽培を拡大します。
 - ④ 農作業における人手不足の解消に向けたスマホアプリ等による労働力確保支援に取り組みます。
4. コスト低減と農作業の効率化に向けた支援
 - ① 包装資材の共通仕様の設定・検討

- や仕様の見直しによる価格抑制とともに、購買力を高めた仕入れの強化に取り組みます。
- ② 堆肥や未利用資源の活用、天敵農薬の普及拡大等、みどりの食料システム法に沿った生産基盤の維持拡大に取り組みます。
- ③ 農作業省力化・生産性向上資材の提案と取扱拡大、農業ICT機器の提案普及に取り組みます。
- ④ 土壌肥料分析センターの活用による、分析値に基づいた適正施肥指導の支援体制を構築します。
- 5. 組合員や地域住民の J A 利用促進に向けた支援
 - ① 基幹 J A - S S や配送拠点で地域一番店を目指し、燃料油のシェアアップ対策を行うことで組合員ニーズに対応します。
 - ② 本県産茶葉および果汁を原料とした飲料の e コマース活用や県下 J A および県外 J A への拡販を行い、消費拡大に取り組みます。
 - ③ J A と連携し、組合員の相続相談、土地活用相談に応えることで、土地活用による住宅開発物件の取扱拡大に取り組みます。
 - ④ 県下統一的な広報活動による J A 葬祭のシェア維持・拡大に取り組みます。

表2 事業計画のあらまし

第75年度(令和6年度)部門別重点戦略

営農総合対策部門

- ◆本会内外の関係各所との連携強化、JA成長・効率化プログラムおよび早期警戒制度のソリューション等の作成、実行支援
- ◆JAの物流について課題の明確化と、配送の内製化等新たな受け渡し方法の模索や2024年問題に対応した物流対策支援
- ◆系統農機整備事業の持続化や人材育成の具体的な方策の検討および実践
- ◆農作業における人手不足の解消に向けたスマホアプリ等による労働力確保支援
- ◆みどりの食料システム法に対応する産地技術課題解決の実証圏等を設置し、成果を水平展開
- ◆多様化、高度化する担い手の課題・要望に応えるため、モデルJAでの出向く体制の改善提案

みかん園芸部門

- ◆みかんの生産性向上のため県育成品種「春しずか」の導入とスマート農機試験導入、化学肥料、農薬の削減に向けた栽培の研究
- ◆AI等の先端技術を導入した広域柑橘選果場の整備・支援
- ◆主力品目を中心とした取り扱いの維持拡大
- ◆休耕地利用や夏野菜産地化試験等の生産振興
- ◆JA静岡青果物広域パッキングセンター設立に向けた取り組み
- ◆包装資材の共通仕様の設定・検討、仕様の見直しによる価格抑制と購買力を高めた仕入れの強化
- ◆環境に配慮した資材や生産性向上・農作業効率化資材の提案・供給

茶部門

- ◆安定生産・販売に向けた茶商と茶工場とのマッチング販売
- ◆需要に基づく茶品種提案と茶苗木安定生産、生産基盤強化に向けた各地区勤番整備地等への供給
- ◆有機栽培茶の生拡大に向けた生産技術の検討と販売量拡大

生産資材部門

- ◆本会直営工場の取扱数量拡大等による肥料の安定供給・取扱数量拡大に向けた系統結集強化
- ◆堆肥や未利用資源の活用、天敵農薬の普及拡大等、みどりの食料システム法に沿った生産基盤の維持拡大
- ◆土壌肥料分析センターの活用による、分析値に基づいた適正施肥指導の支援体制の構築
- ◆系統農機事業の持続化に向けた人材の育成、JA農機センターの収支改善と将来目指すJA農機事業の提案
- ◆整備修理事業強化のため、講習会受講促進要領を設定と次世代を担う整備士の継続的な養成

営業部門

- ◆輸出先国の規制やマーケットインに対応した産地農産物づくりと輸出拡大
- ◆eコマースにおける静岡手しお屋(JAタウン)の機能発揮による県産農畜産物の認知度向上と販路拡大
- ◆「駿府の肉処 静岡そだち」の健全経営とアンテナショップとしての機能充実
- ◆実需者との直接商談や県域機能としたコーディネート出荷による総合的販売力の強化と買取りによる直接販売の拡大
- ◆インスタントアプローチ等のJAファーマーズマーケットの店舗支援

くらし支援部門

- ◆本県産茶葉および果汁を原料とした飲料のeコマース活用や県下JAおよび県外JAへの拡販と消費拡大
- ◆健康づくり支援、快適な暮らし支援、環境対策
- ◆JA葬祭協議会の会員連携・事業基盤強化による、JA葬祭のシェア維持・拡大
- ◆基幹JA-SSや配送拠点で地域一番店を目指し、燃料油のシェアアップ対策による組合員ニーズへの対応
- ◆LPガス供給継続に向け、JAと本会が一体となった新たな事業体制の構築
- ◆LPガス供給件数の確保と数量シェア維持によるJAの経営改善支援
- ◆総合的なホームエネルギー事業の取り組みによる、エネルギーを通じた組合員・利用者への貢献
- ◆建設事業におけるJA施設再編整備の支援
- ◆JAと連携した組合員の相続相談・土地活用相談と土地活用による住宅開発物件の取扱拡大
- ◆JAと連携した組合員のリフォーム工事等相談と工事物件の取扱拡大

食糧部門

- ◆共計米に加えてJAとの連携による買取集荷・契約栽培を強化し、多様な集荷・販売を拡大
- ◆異常気象に対応した安定生産や安定販売が可能な「多収穫米品種」の普及と業務用需要に対応した契約栽培の拡大
- ◆耕畜連携による新たな子実用とうもろこし等の実証生産に向けた検討や稲わらの供給体制の構築、県等の関係機関と連携した水田活用米穀および酒米(令和誉富士)の計画生産
- ◆HACCP制度への適正な対応による品質管理レベルの向上
- ◆工場設備の改善と稼働体制の構築による製造効率アップと収支改善

畜産部門

- ◆仕入れメリットを発揮できる飼料推進の強化と数量拡大による飼料価格低減
- ◆事故防止およびコスト低減による肉牛肥育事業の経営安定と新規委託農場の推進による肥育頭数の確保
- ◆食肉センター再編整備事業を円滑に進めるため、業務の確認と今後の対応を県と協議・検討
- ◆既存ブランドの利用および販売強化による安定出荷と部分肉加工事業の拡大による販売金額の向上

花の都しずおかをPR 第39回静岡県花の展覧会

静岡県花卉園芸組合連合会（事務局：野菜花卉課）は2月9日、掛川市の掛川花鳥園で第39回静岡県花の展覧会審査会を開催しました。最高位の金賞1席（農林水産大臣賞・JA全農会長賞・日本農業新聞会長賞）には、JAふじ伊豆の鈴木顕一さんが一般切花部門で出品したキンギョソウ「雪姫」が受賞しました。

展覧会では、県内の生産者から全8部門（カーネーション、きく、ばら、ガーベラ、トルコギキョウ、一般切花、枝物、鉢物）に294点の出品がありました。県農林技術研究所の



岩崎敏之所長が審査長を務め、県や市場などの関係者ら24人が花の形質や商品性、茎葉のバランスなどの項目を審査しました。

審査後は、展示と販売会も実施しました。主な金賞受賞者は表の通り（敬称略）

賞	氏名	JA名	部門名	品種名	特別賞	
金賞	1席	鈴木顕一	JAふじ伊豆	一般切花 (キンギョソウ)	雪姫	農林水産大臣賞 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞 日本農業新聞会長賞
	2席	渡辺勇暁	JAふじ伊豆	トルコギキョウ	アンバーダブルシヨコラ	農水省農産局長賞 静岡県農業協同組合中央会代表理事会長賞 静岡新聞・静岡放送社長賞
	3席	大場安輝子	JA掛川市	ばら	ブライムチャーム	静岡県知事賞 静岡県信用農業協同組合連合会理事賞 掛川市長賞
	4席	木本大輔	JAとびあ浜松	きく	シャンパン（一輪）	静岡県知事賞 全国共済農業協同組合連合会静岡県本部運営委員会会長賞
	5席	遠藤美行	—	鉢物	ビーチフレア	静岡県知事賞 静岡県厚生農業協同組合連合会理事賞
	6席	小野紀子	JAみっかび	枝物	ミルフルール	農水省関東農政局長賞 静岡県経済農業協同組合連合会理事賞
	7席	松尾哲司	JAとびあ浜松	ガーベラ	キムシー	静岡県農林水産業振興会長賞 静岡第一テレビ社長賞
	8席	山田巧	JAふじ伊豆	カーネーション	グリーンモンスター	静岡県経済産業部長賞 日本花き生産協会会長賞



▲金賞1席
鈴木さんのキンギョソウ



▲審査のようす▲



バランタインに花を贈ろう フラワーバランタイン イベントを実施

静岡県花卉園芸組合連合会（事務局：野菜花卉課）は2月11日、バランタインに花を贈る「フラワーバランタイン」のPRイベントを、静岡市葵区の紺屋町名店街（パルコ前）で開きました。イベントには県内の花き生産者、県、JA職員らが参加し、バラやガーベラなどの県産花きの展示や販売、市内のフロアリストによる即興で花束を作るフラワーパフォーマンスなどを実施しました。

また、生産者や市場関係者ら花をもって商店街を歩き、消費者へ配布を行う「フラワーウォーク」も行いました。



選ばれる静岡みかん・信頼される柑橘産地を未来につなごう 令和6年静岡県柑橘生産者大会を開催

静岡県経済連柑橘委員会（事務局・柑橘果樹課）と（一社）静岡県柑橘振興基金協会は2月16日、静岡市駿河区のグランシップで「令和6年静岡県柑橘生産者大会」を開きました。大会では、令和6年産柑橘重点実行方針の承認、品評会上位入賞者の表彰式、講演などを行いました。

令和6年産柑橘重点実行方針では、最重点項目を「適切な着果管理と高品質果実の生産による安定出荷」とし、①改植と間伐の推進、②早期樹勢回復と土づくり、③着果管理の徹底、④温暖化等の気候変動に対応した高品質果実の栽培を掲げました。



▲第58回貯蔵ミカン品評会で農林水産大臣賞を受賞した高橋誠さん（JAみっかび）

表彰しました。講演では、県農林技術研究所の研究者とメーカーが、カンキツそうか病対策やカメムシの生態、農業用ドローンを利用した病害虫防除などを紹介。スマート農業による労力軽減をPRしました。



▲功労者表彰



▲品評会優秀賞受賞者

県産和栗のブランド化を目指して 和栗デザイナー&フォーラムを開催

県産和栗の魅力を発信する「遠州・和栗プロジェクト」は2月27日と28日の両日、掛川市内で「和栗デザイナー&フォーラム」を開催し、関係者ら約200人が参加しました。同プロジェクトは商品開発や広報活動、農作業の技術支援などの取組を通じ、県産和栗の認知向上やブランド化を目指し、本会と県内J Aや遠州地域の自治体8市1町、地元企業などが協力し、令和4年に発足しました。



▲プロジェクトに参加する各団体・企業・自治体の代表者ら

1日目は、本会やメーカーの担当者が活動報告や今後の取り組みなどを共有。デザイナーでは県産和栗を使用したスイーツや料理を提供しました。2日目は、温泉旅館経営者と和栗生産者が、地域資産価値の向上や和栗の栽培、加工などに関する講演を行い、約120人が参加しました。同プロジェクトはこれまでも植樹祭や収穫体験などのイベントを開催しており、令和6年度は掛川市やJ A掛川市が苗木代の補助や園地整備等の支援を行う他、本会も引き続き栽培技術支援や協議を通じた振興施策を展開します。



▲講演のようす

特販課の取組を紹介
「ごちそうカントリー」の番組収録と放送

3月17日放送のテレビ番組「ごちそうカントリー」（静岡第一テレビ・毎週日曜日昼11時40分放送）では、本会が担当回となり、「業務用イチゴ」をテーマに特販課の業務用果実の供給拡大とマッチング強化の取組を集めました。

番組では、JAふじ伊豆・伊豆の国地区の生産者、高田祐樹さんのほ場を紹介した他、本会がイチゴの供給を行う洋菓子店「キルフェボン静岡店」で、県産イチゴの主力品種「紅ほっぺ」と「きらび香」を使用した

タルトの試食を行いました。

本会事務所からは特販課の松永大樹係長が出演し、本会の機能や取組について説明しました。

また、視聴者プレゼントのコーナーでは「紅ほっぺ」と「きらび香」の静岡いちご食べ比べセットを応募のあった視聴者の中から抽選で選ばれた5人に提供しました。

番組のアーカイブは動画投稿サイト「YouTube」の静岡第一テレビ公式チャンネルで視聴可能です。



▲インタビューに答える松永係長



▲業務用イチゴについて説明する高田さんとJAふじ伊豆の担当者



▲キルフェボン静岡店での撮影のようす



調味料メーカーと連携
名古屋市中で
静岡県産フェアを開催

名古屋事務所は2月10日と11日の2日間、愛知県名古屋市のイオン熱田店で静岡県産フェアを開催しました。フェアでは特設コーナーを設け、静岡県産の新タマネギ「はるたま」やセリリーなどを販売しました。

同事務所は調味料メーカーの「理研ビタミン」と連携を図り、店頭で早出しタマネギ（はるたま）と同社の「リケン」のノンオイル青じそを組み合わせて試食の提供を行い、来店客にPRしました。同社と連携した取組みは2年連続となり、今年度は新たに「はるたま」と「リケン」のノンオイル青じそがコラボしたレシピ動画をSNSで公開し、旬を迎える農産物を紹介しました。



静岡県農業振興基金協会からご案内

(公社)静岡県農業振興基金協会は、本県の農業振興・農村活性化を図ることを目的に、担い手育成、農業振興、農村振興等に取り組む農業者等の組織(2名以上)に対し、活動経費の1/2以内(限度額有)を助成します。各事業について以下のとおりで紹介いたします。

(1) 担い手育成対策事業 (助成率2分の1以内)

事業名	事業内容	事業主体
①農業者経営能力等向上事業	経営、技術向上を図る講座、研修、研究活動等の担い手育成活動	農業者等組織、JA
②担い手等広域交流促進事業	担い手組織が行う東・中・西部に渡る研究会や情報交換会	担い手組織
③生きがい農業応援事業	自給、ファーマーズマーケット出荷を目指す初心者への基礎研修	JA
④女性活動、男女共同参画推進事業	女性の活動及び社会・経営参画を行う女性組織やJA女性部等の活動	農業者等組織、JA

(2) 地域農業振興対策事業 (助成率2分の1以内、⑥独自開発は10分の10以内)

事業名	事業内容	事業主体
①農産物マーケティング推進事業	市場調査、新商品開発、ブランド化、販売促進、地産地消、輸出拡大等の活動	農業者等組織、JA
②農業生産研究事業	生産技術、新作目、燃油・肥料・資材高騰対策技術等の研究・実証	農業者等組織、JA
③安心安全な農産物を生産するための基盤づくり事業	I PM、G A P等取得、残留農薬分析、SDGs、みどりの食料システム戦略等の活動	農業者等組織、JA
④農作物鳥獣等被害対策事業	鳥獣害防止や駆除の研修会・講演会 デジタル技術などを用いた鳥獣被害対策技術の現地実証	農業者等組織、 市民団体、JA
⑤農地集積、耕作放棄地活用等推進事業	農地集積の合意形成や、耕作放棄地の再生を行う活動	農業者等組織、 市民団体、JA
⑥農業新技術研究・導入促進事業	新技術等の研究・導入に取り組む事業 (※独自開発は助成率10/10以内も可)	農業者等組織、 農業後継者の組織 (学生等) JA
ア 新商品開発販売研究事業	新商品開発、試験販売、新流通システムの確立研究	
イ 農業新技術開発普及促進事業	新技術開発研究、普及のための現地実証	
ウ 優良種苗供給事業	新品種や優良種苗の生産供給体制の整備、新品種の育成	

(3) 農村振興対策事業 (助成率2分の1以内)

事業名	事業内容	事業主体
①地域特産づくり推進事業	新たな農林産物の導入、特産品開発、販売促進活動	農業者等組織
②グリーン・ツーリズム推進事業	景観、伝統文化、体験施設、地域資源を活用して取り組むグリーン・ツーリズム活動	農業者等組織
③食農教育支援事業	消費者や児童・生徒への農業体験、調理加工体験、学校との食農教育活動	農業者等組織、 市民団体、JA
④直売所等開設支援事業	農産物の地域内流通、直売所・店舗・朝市等の開設及び開設翌年度の運営活動	農業者等組織

(4) 日程

各事業は4月1日から実施可能ですが、助成を活用するには申請が必要です。5月下旬の事前審査会を経て、6月末が申請書の締切となっています。助成事業の申請については、静岡県農業振興基金協会事務局までお問い合わせください。

事務局

公益社団法人 静岡県農業振興基金協会

〒422-8619 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号

電話：054-284-9545 FAX：054-284-6001 E-mail：kikin@chu.ja-shizuoka.or.jp

ホームページ：農業振興基金協会 (<http://group.ja-shizuoka.or.jp/kikin>)

農林技術 研究所 だより

ドリンク原料茶生産に 対応した静岡型茶園管理規格

一 はじめに

近年、ドリンク茶市場の拡大に伴い、茶の生産現場ではドリンク原料向けの生産が年々増加していますが、摘採時期や茶園管理方法が従来とは異なるため、これに対応した茶園整備方法や栽培技術を確立する必要があります。

そこで、ドリンク原料茶生産に適した茶園整備基準や乗用型茶園管理機の利用基準等からなる「静岡型茶園管理規格」を策定しました。本稿ではその一部を紹介します。

二 ドリンク原料茶生産に適した茶園整備基準

ドリンク原料茶生産では、低コスト化や省力化が求められることから、乗用型茶園管理機の利用が前提となります。特にコンテナ式乗用型摘採機を導入する場合の最適なうね

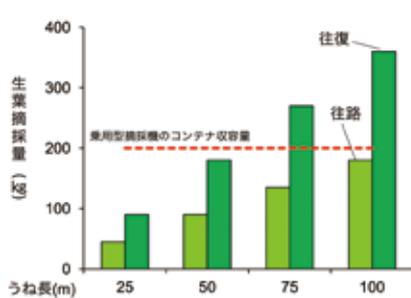


図1 うね長と生葉摘採量との関係
※10a当たり生葉収量1,000kg、
コンテナ収容量2㎡、
生葉密度100kg/㎡として算出

長は、収容量と往復での生葉摘採量の関係から、50〜60mのうね長が適していることが明らかになりました(図1)。

また、大型機械体系を前提とした主要作業(摘採・整枝・施肥及び耕起・防除)の作業時間の短縮効果は、うね長25m・片側枕地の条件をうね長50m・両側枕地とすることにより、10a当たり年間で約5時間以上短縮されることが明らかになりました。以上を踏まえ、表1及び図2にドリンク原料茶生産に対応したほ場整備条件を示しました。

表1 ほ場整備条件

項目	整備水準
うね長	50～60m
枕地	うねの両側に配置、 旋回スペースとして3m以上
ほ場傾斜度	5°以内
1団地の面積	30a以上

※うねを往復して摘採し、進入路に駐車しているトラックに生葉を積載する場合の最適なうね長を試算
※10a当たり生葉収量を1,000kg程度として、コンテナの収容量(2㎡)が一杯になるうね長を試算しており、みる芽摘採や通常の収量で摘採する場合は、うね長は100m程度が望ましい

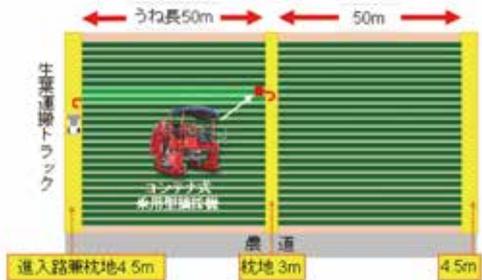


図2 ドリンク原料茶生産に適したほ場例

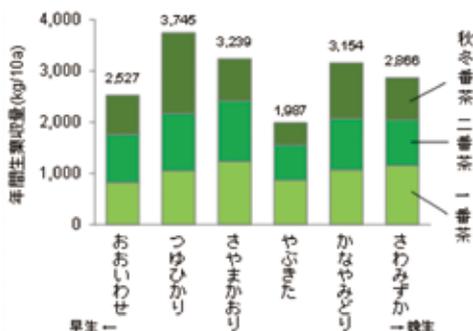


図3 晩期摘採した6品種の生葉収量
※3ヵ年(令和2～4年)の平均値

「つゆひかり」では3500kg以上、2000kg前後であったのに対し、3カ年平均)は、「やぶきた」では摘採に適する品種を検討しました。一、二番茶を適期から5〜7日後に摘採する晩期摘採を行い、3カ年の生葉収量及び荒茶品質を比較した結果、10a当たり年間収量(3カ年平均)は、「やぶきた」では2000kg前後であったのに対し、

三 多収性品種の導入

ドリンク原料茶生産で有効な多収摘採に適する品種を検討しました。

私が紹介します!



静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
茶生産技術科長
(現 静岡県農林環境専門職大学短期大学部 教授)

鈴木 利和

「さやまかおり、かなやみどり、さわみずか」では3000kg前後の収量が得られました。(図3)。

また、今後品種登録予定の晩生品種「しずゆたか」は、年間収量が「やぶきた」の約2倍と多収性であり炭疽病にも強く、ドリンク原料茶適性が高いと考えられます。

四 茶園管理機械利用基準

ドリンク原料茶生産においては、コンテナ式乗用型摘採機、乗用型防除機、乗用型管理機を基本とする「大型機械体系」を導入し、茶園管理の省力効率化、低コスト化を図る必要があります(図4)。

この大型機械体系での摘採・整せん枝、防除、施肥・耕起、裾刈り等の茶園管理作業(準備・移動及びその他を含む)に要する時間を試算しました。その結果、年



図4 大型機械体系の例
(左上:コンテナ式摘採機、
右上:管理機、下:防除機)
※落合刃物工業㈱HPから引用

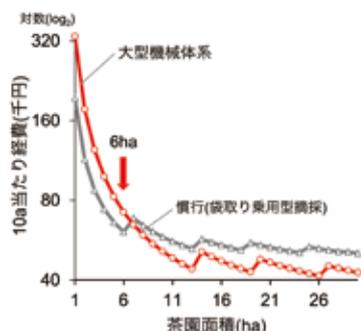


図6 機械体系別の茶園面積と10a当たり経費の関係
※経費:機械減価償却費、人件賃、燃料費の合計

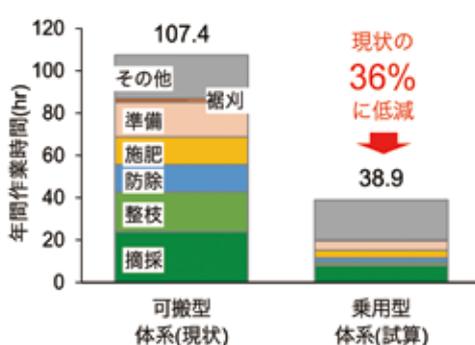


図5 機械体系別の10a当たり年間作業時間(試算値)

間作業時間は約39時間/10aとなり、可搬型摘採機や自走式施肥機等を利用した作業体系(約107時間/10a)の36%程度に低減できると試算されました(図5)。一方で、大型機械体系では導入コストの負担が大きいため、一定以上の経営規模が必要となります。

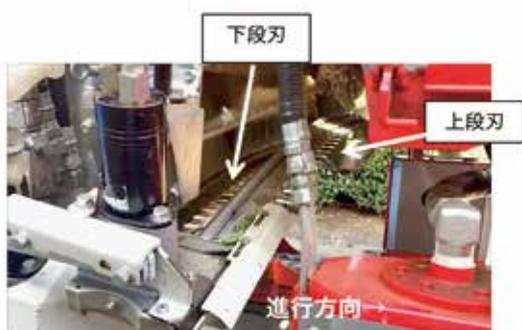


図7 乗用型摘採機の二段刈り刃

そこで袋取り式乗用型摘採機を基本とする慣行機械装備と、大型コンテナを基本とする大型機械体系について、茶園規模と10a当たりの経費(減価償却費、人件賃、燃料費)との関係を試算しました。その結果、茶園面積が6haを超えると大型機械体系の経費が下回りました(図6)。ドリンク原料茶用の生葉は従来の摘採適期から5日程度遅らせて長く伸長した新芽を摘採するため、生葉のかさ密度が低下し、乗用型摘採機のコンテナが早く満杯になります。そこで、二段刈り刃を用いることにより、かさ密度が増加し、収容能力が高まるため、運搬用車両への生葉

積載に要する時間が削減されます(図7)。

また、製茶工場での生葉受け入れ時間が短縮されることや、摘採面の凹凸が少なくなることなどのメリットもあります。二段刈り刃では、上下の刃の間隔を設定することが可能であり、ドリンク原料茶用を想定した場合、一、二番茶で50mm、秋冬番茶で70~100mmが適当です。

五 おわりに

「静岡型茶園管理規格」は、新成長戦略研究「荒茶販売額を倍増する静岡型ドリンク向け茶生産システム」の開発(令和2~4年度)において得られた成果を取りまとめたものです。過日(令和5年4月)関係機関に配布いたしました。詳細をご希望の方は茶業研究センターまでお問い合わせください。

連絡先

菊川市倉沢一七〇六一—
静岡県農林技術研究所
茶業研究センター茶生産技術科
Mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

テレビ番組

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米をPRしました。3月の放送をもって予定していた全11回が終了しました。

最終となる第11回目(3月16日)の放送では、日向坂46の平尾帆夏さんと山下葉留花さんが島田市と吉田町から「静岡コシヒカリ」を紹介しました。「静岡コシヒカリ」は粘りが強く、モチモチとした食感とキラキラとした光沢が特徴です。番組では、JAハイナンの生産者、杉村浩司さんとご家族がビデオメッセージで出演し、「静岡コシヒカリ」をPRしました。

令和5年度に紹介した県産米は表のとおりです。1年間ご覧いただきありがとうございました。



令和5年度「しずおかごはんが食べたい！」で紹介した県産米



放送回	放送日	市町	米名称	米産地
# 1	5月20日	三島市・函南町・伊豆の国市	にこまる	JAとびあ浜松
# 2	6月17日	浜松市	コシヒカリ「静岡そだち」	JAとびあ浜松
# 3	7月15日	御殿場市	このはなの恵み	JAふじ伊豆
# 4	8月19日	富士市・富士宮市	きぬむすめ	JAふじ伊豆
# 5	9月16日	静岡市	静岡コシヒカリ	JA静岡市
# 6	10月21日	藤枝市・焼津市	きぬむすめ	JA大井川
# 7	11月18日	御前崎市・牧之原市	高天神コシヒカリ	JA遠州夢咲
# 8	12月16日	三島市・沼津市	するがの極	JAふじ伊豆
# 9	1月20日	磐田市・袋井市	にこまる	JA遠州中央
#10	2月17日	掛川市・菊川市	掛川コシヒカリ	JA掛川市
#11	3月16日	島田市・吉田町	静岡コシヒカリ	JAハイナン

テレビ番組

「しずおかバカ売れの法則」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

食糧課は3月30日、テレビ番組「しずおかバカ売れの法則」(毎月最終土曜日17時からテレビ静岡で放送)で、令和5年産米の食味ランキングで最高位の「特A」評価を獲得した県産米「にこまる」と「きぬむすめ」をPRしました。

番組は、お笑い芸人のアンジャッシュ児嶋一哉さんがMCを務め、静岡で「バカ売れ」している商品を紹介する情報番組で、同課の杉本耀介担当が出演しました。番組では、「にこまる」と「きぬむすめ」を使用したおむすびを試食し、それぞれの銘柄の特徴を紹介しました。



令和6年3月31日付

定年・選択定年退職者のご紹介

このたび、令和6年3月31日をもちまして定年退職を迎えられた方々に、石川和弘代表理事理事長より本会を代表して感謝状を贈りました。ここに7人の方々をご紹介申し上げます。長い間本会を支えていただき誠にありがとうございました。末永くご多幸をお祈り申し上げます。



後列目左より

山下 昌徳
(常務理事)

鎌野 厚
(代表理事専務)

石川 和弘
(代表理事理事長)

藤野 勉
(常務理事)

市川 敬弘
(常勤監事)

(右上)小松 久彦

前列目左より

鳥居 孝充

原田 佳典

金丸 総一郎

藤本 敏文

石川 裕幸

井上 直人



▲退職者の謝辞



▲授与式の様子

特A評価獲得!

一般財団法人 日本穀物検定協会
令和5年産米食味ランキング

※商品そのものの評価ではございません



静岡県産 **にこまる**
(西部地区)

静岡で育まれたおいしいお米。



静岡県産 **きぬむすめ**
(東部・西部地区)

もちもちとした食感と
強い粘りが特徴のお米です。

ふっくらとした炊き上がりのお米はあっさりとした味わいで
噛むことで味わいが増します。

思わず笑顔がこぼれる
美味しさです。

キヌヒカリの娘である
きぬむすめ。

食味はコシヒカりに劣らず、
外観・味共に優れています。

また、炊き上がりの白さと
ツヤが素晴らしいお米です。

静岡県産米麦流通連絡協議会
県下JA・JA静岡経済連

担当：食糧部 食糧課 (TEL：054-284-9737)

